

都市計画マスタープラン策定実習 第2回中間発表 2013.12.06

Tsuchitter

～つちうらを フォロってファボって リツイート～

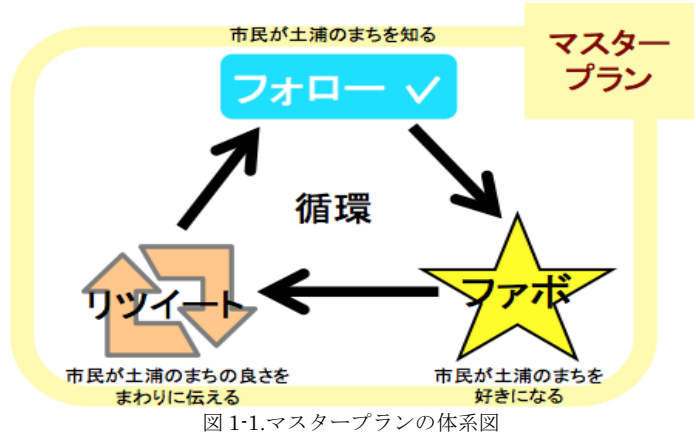
1 班 井下純貴／石村匠／瀬島由実加／富田真紀／山根優生 TA 岩片麻実

1. コンセプト

Twitter とは 140 文字以内の「ツイート」(=つぶやき) と称される短文を投稿できる情報サービスである。Twitter ではフォロワー (=知る・つながる)、ファボ (=お気に入りに登録する)、リツイート (=他の人に拡散する) という 3 つの行為により情報の共有を行う事ができる。私たちは Twitter を参考にし、「Tsuchitter ～つちうらをフォロってファボってリツイート～」というコンセプトのもと、土浦の将来に向けたまちづくりの方向づけを行った。この実習において Twitter の 3 つの行為を以下のように定義した。

- ・ フォロー：土浦市民が土浦を知る・つながる
- ・ ファボ：土浦市民が土浦を好きになる
- ・ リツイート：土浦市民が土浦の良さをまわりに伝える

これら 3 つは図 1-1 の示すように循環して繋がる体系をしている。これを私たちのマスタープランの大枠とする。



2. 土浦市の概要

土浦市は茨城県南部に位置する都市であり、東京から約 60 km、成田国際空港から約 40 km に位置している。平成 18 年 2 月、新治村と合併を行い面積 122.99 ㎢ となった。水と緑に恵まれた都市であり、筑波山麓・桜川・日本第 2 位の面積を誇る霞ヶ浦を有している。霞ヶ浦周辺には蓮田が広がり、レンコンの生産量は日本一を誇る。

3. 人口

土浦市の人口は 2010 年に新治村と合併したことで大幅に増加したが、それ以降は減少傾向にある。コーホート要因法によると図 3-1 のように今後も生産年齢人口割合は減少し、高齢者割合は増加していくことが予測される。約 20 年後の 2035 年予測人口は

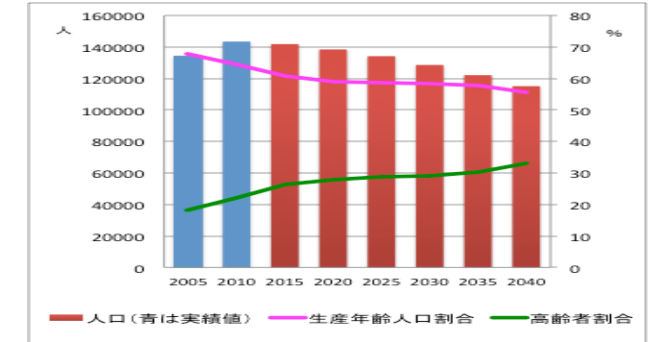


図 3-1. 土浦市の人口推計

12.2 万人であるが、当計画での市の魅力向上による社会増と子育て特区(後述)による自然増が見込まれるため、人口の減少幅が小さくなることを予測し、2035 年目標人口を 12.7 万人とする。

4. ヒアリング

市の現状を把握し、問題点と解決策を探るため、数度のヒアリング調査を実施した。その概要を示したものが表 4-1 である。

表 4-1. ヒアリング調査概要.				
	日時	場所	対象	内容
1	11/3	小町の里	主婦	土浦は福祉が充実しているが公共交通機関が少ない
2	11/3	小町の里	体験にきていた女性	ホームページを見て稲刈り体験を知り、友人を誘い参加
3	11/3	小町の里	稲刈りのボランティア	退職して暇なのでボランティアに応募。稲刈りは素人
4	11/15	小町の館	蕎麦屋店員	直売所の果物などを目当てに来る人や老人ホームの遠足に利用されることも
5	11/15	小町の館	レジ打ち男性	霞ヶ浦をほこりに思っている。中心市街地のシャッター街が寂しい
6	11/15	さん・あびお	客の男性	さん・あびおには暇なとき来る。バスはありがたいが車を運転できるから使わない
7	11/28	神立駅	バス利用者	神立の商店が頑張っているのは知っているが、買い物に利用することはあまりない
8	11/28	神立駅	駐輪場の受付	工場による汚染などが少し気になる。霞ヶ浦のPRがうまくできていない
9	11/28	神立	神立商工振興会元会長	土地区画整理事業終了後に振興会としてなにかするつもりはないが、まちづくりには貢献して行きたい

5. 提案内容

【5-1. 全域的提案】

5-1-1. 現状

土浦市は筑波研究学園都市に隣接している。また市内には多くの高校が立地している。筑波大学と地元の高校とが連携し地域活性化シンポジウムを行ったこともあり、より質の高い教育を行うのに十分な環境が整っている。また、土浦市は霞ヶ浦や筑波山麓といった自然や、歴史あるまちの文化的な素養が豊富であり、教育の素材にも恵まれている。

5-1-2. 教育プログラム提案

土浦市の小・中・高校を対象に教育プログラムを通して土浦のまちについて学ばせる。学校教育のなかで土浦のまちを知ること、土浦のまちについて考えさせる機会をつくる。

小学校では体験型学習、中学校では発信型学習、高校では提案型学習を行い、成長とともに高いレベルの学習プログラムに取り組む。体験型学習では、土浦まち歩き探検やレンコン収穫体験などを行い土浦のまちを体で学ぶ。発信型学習では、学級新聞を作成し広報つちうらの特集ページとして提供したり、あるいは編集に携わったりさせる。広報つちうらに関与させることで若者の購読率のアップにもつながる。高校生には、大学生にサポートをしてもらいながら自ら問題発見をし、それに対する提案を行わせる。

高校生のうちにまちづくり提案のノウハウを学ぶことができる。また、小・中学校の最高学年では下級生をサポートしてもらう。これにより下級生は学習の質や効率の向上につながり、上級生は下級生への指導を経験できる。これにより多面的な教育を可能とする。これらの体系を示したものが表 5-1 である。

表 5-1. 教育プログラムの体系	
小学1～5年生	体験型学習
小学6年生	下級生サポート
中学1～2年生	発信型学習
中学3年生	下級生サポート
高校生	提案型学習

【5-2. 地域の宝発掘計画】

5-2-1. 新治地区

5-2-1-1. 現状

土浦市北西部に位置する新治地区は田園と果樹園の多く立地する農業の盛んな地域である。一方後継者不足が叫ばれ、農業従事者数は 2000 年からの 5 年間で 1,901 人から 18.5% の減少を見せている。そのため耕作放棄地の拡大も問題となっている。自然面では水郷筑波国定公園に指定される筑波山麓と、桜川を有し、自転車専用道りんりんロードや朝日峠のスカイスポーツなどにその空間は活用されている。

5-2-1-2. 自然特区計画

・自転車政策

新治を自然特区に指定し自然レクリエーションと農業振興の場として位置づける。

第一に新治地区を縦断するポタリングコースを選定する。ポタリングとは自転車による散歩のことである。自然資源と小町の里周辺の文化資源を融合させ、人々に自転車で走ってもらうことで従来は気づけなかった新しい魅力を発掘し、好きになってもらい、かつ新治の魅力を広めてゆくことを目指す。

ルートは既存道の歩道設置区間や交通量の少ない農道に設定し事故や渋滞を回避する。りんりんロード旧常陸藤沢駅を起点とし、JA さんふれ新治・温泉のある総合福祉センター等を経て、小町の館を基幹とした小町の里周辺文化エリアを回る。これを示したものが図 5-2 である。小町の館ではサイクルステーションとして自転車サポート機能の充実を図ることで自転車による来訪者の増加と利便性向上を図る。なおサイクルステーションとは現在いばら



図 5-1. 新治ポタリングコース



図 5-2. 水郷筑波サイクリングコース

きサイクルツーリズムの設置する「サポートステーション」(トイレ、空気入れ、雨宿り、駐輪ラック)に加えて充実したレンタサイクルの拡充や皇居ランステーションをモデルとしたシャワーやロッカールームなど自転車利用者に向けた総合的な施設とする。またこの政策に関連して、市周辺の自転車道整備についても目を向ける。市ではりんりんロードと霞ヶ浦自転車道という 2 自転車道を抱え、恋瀬川サイクリングコースも近接。また図 5-2 のとおり県は 2016 年度に霞ヶ浦を一周する水郷筑波サイクリングコースの設置を計画している。こうした中で土浦はサイクリングの要衝たりうる。電車による来訪窓口となる土浦駅を有し、かつ霞ヶ浦とりんりんロードの結節点に位置するためだ。そのため市中心部のモール 505 にも前述のサイクルステーションを整備し、また中心地における自転車の流れを案内板やマップ整備等で適正に制御することにより、自転車利用者における土浦の価値を高めることとする。

- ・ 農業体験

11 月 3 日、小町の里にて開催された稲刈り体験に参加し調査を行った結果、内容は充実し満足のいくものであった一方で参加者同士の交流がほとんど見られないことが分かった。現在の農業体験でも地域特性を活かし、また農業への関心を集めることはできるだろう。私たちはこれに交流というキーワードを取り込むことで更なる魅力向上を目指す。小町の里を拠点とし、周辺に農業体験の受入先を募ることで取り組みを住民へと波及させるほか、参加者でランダムにチームを構成させ作業や収穫後の調理など体験全体を通した共同作業の形をとることで参加者同士の交流を生み、農業体験だけでない付加価値を付けてゆくことを狙いとする。

5-2-2. 荒川沖地区

5-2-2-1. 現状

荒川沖地区は閑静な住宅街で、広くて気持のよい乙戸沼公園もあり週末は多くの子供たちの遊び場となっている。なお図 5-3 に示すとおりこの地区は市内他地区と比較して 15 歳未満の人口が多くなっている。しかし一方で荒川沖駅前ショッピングモール「さんばる」も含め活気があるとは言い難い状態であった。

5-2-2-2. 子育て特区計画

荒川沖地区周辺を「子育て特区」とし、実現のための 2 つの政

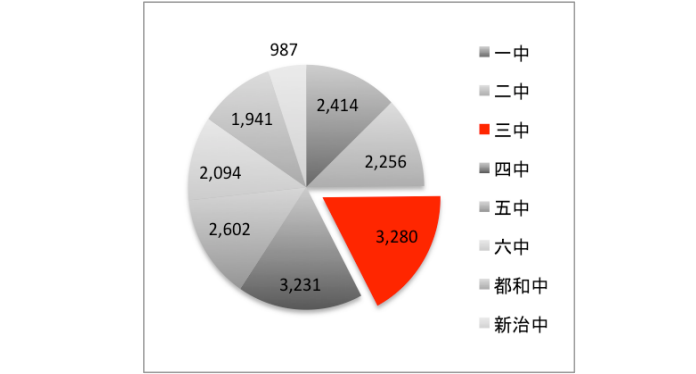


図 5-3. 土浦市中学校区別 15 歳未満人口（H25. 10）

策を提案する。

第一にさんばる内の空きスペースを活用し、未就学児を無料で一時的に預かる「子育てはっとカフェ」を設置する。預かり時間は一日最大２時間までと定め、別料金によりピアノや習字など習い事もできるようにする。子供たちの面倒を見るのは地元の人であり、給与は市からの補助金で賄う。保護者向けにカフェも併設し、母親は子供を預けている間に併設するカフェにおいてママ友同士で休憩をしたり買い物をしたりすることができる。土浦には「NPO 法人いろは」や「NPO 法人サポートハウスにれの木」など子育て支援を行う民間団体が複数存在するためサービスを行う環境は整っている。

第二に、図 5-4 の通り現在市内 7 カ所の小学校施設で実施されている「放後子ども教室」の更なる推進である。これは放課後の学校において近隣の人が教室を活用し勉強などを教えるものであり、時間を有効に活用した学力向上を図るとともに地域の人との交流を生むことで地域ぐるみでのより良い子育て環境が整うと考えられる。

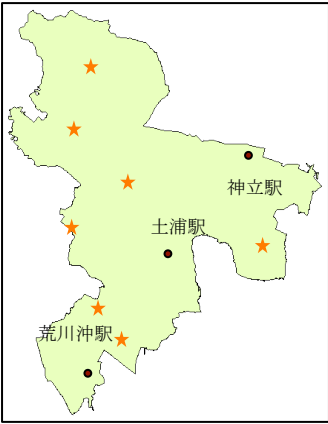


図 5-4.現在の放課後子ども教室所在地

5-2-3. 神立地区

5-2-3-1. 現状

神立は工業団地が立ち並ぶ工業の街であり、神立駅周辺の区画整理が決まっている。また 3 年前に神立商工振興会の役員若返りを図り図 5-5 の通り「神立から！元気発進!!」をスローガンに神立地域の商店や まちを紹介する「神立手帖」を作るなど工夫を凝らしている。しかし一方で駅周辺は閑散としており、ヒアリング調査(表 4-1 の 9)によると区画整理事業により駅の西側に大きな広場ができる代わりに周辺商店の多くが閉店になるという。



図 5-5.神立の取り組み

5-2-3-2. チャレンジ特区計画

私たちは神立を盛り上げようとするこの「人」こそ神立のポテンシャルであると考える。そこで神立を「チャレンジ特区」とすることを提案する。具体的には区画整理事業で閉店する商店を資金面で援助し再出店に結びつけること、駅舎内にチャレンジショップを設けることの二点である。

区画整理事業によって閉店してしまうがまだ商売継続意思のある商店を対象に市が資金面で援助を行う。私たちの現地調査において神立駅周辺に空き家や空き店舗の存在が確認されたためそうした店舗に移って商売を継続してもらう。

また、駅舎内にチャレンジショップを隣接して 3 区画設置し競わせ、売上が良い店舗ほど長期間店舗を継続して出せるという決ま

りにする。この施設は市が運営し、神立商工振興会と連携することで、神立駅に地域の暖かさを残しつつ新しい神立駅にふさわしいチャレンジの場とする。

5-2-4. おおつ野地区

5-2-4-1. 現状

おおつ野地区は職住近接都市を目指し計画された。しかし土浦協同病院移転を含めた数区画以外の区画への工場誘致は難航しており、構想の実現はできていない。

5-2-4-2. 医療特区計画

・医住近接計画

私たちは職住近接から医住近接のまちへ構想をシフトすることを提案する。おおつ野が医療福祉の充実していることはもちろん、医療研究・教育でも先進的なまちとする。

具体的には、土浦協同病院付属看護専門学校や医療の研究開発の施設を集積させる。専門学校と医療研究施設が集積することで、連携しやすくなる。また、こういった施設を設けることで、地区住民が高齢者ばかりに偏ってしまうことを防ぐことができる。図 5-6 にその土地利用を示す。

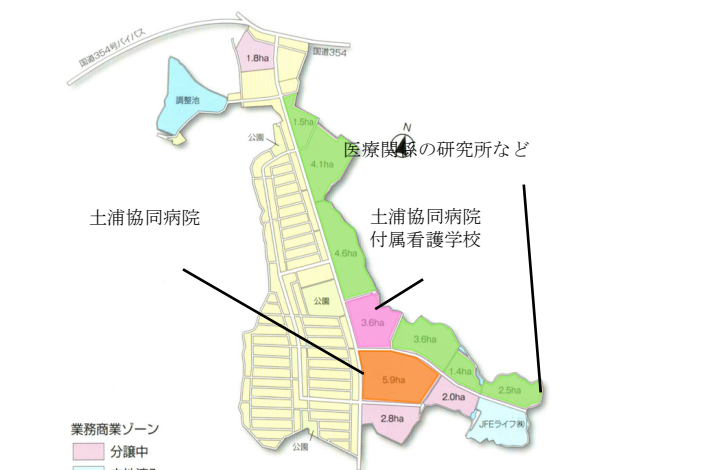


図 5-6.医住近接計画図

・一般向け医学講座

土浦協同病院に一般に向けた医学の公開講座を行う場所を設ける。新人医師や土浦協同病院付属看護専門学校の実習で講座を開くことで、市民が気軽に医療について学べる場とする。

また、入院患者やお見舞いにきた人が一緒にいる時間を過ごせる「ひまつぶし空間」をつくることを提案する。快適な入院環境や楽しくお見舞いできる病院にすることで親しみのある医療都市を目指す。

5-2-5. 中心市街地

5-2-5-1. 現状

「イオンモール土浦」をはじめ、 つくば市の「iias つくば」、阿見町の「阿見アウトレット」など郊外型ショッピングセンターが増加していることによって、土浦市の中心市街地の商業は年々衰退している。中心市街地の商店街では店主の高齢化により、シャッターを閉める店舗や空き店舗が増加し、モール 505 についても空き店舗が増加し魅力的とは言えない状況である(表 4-1 の 6)。

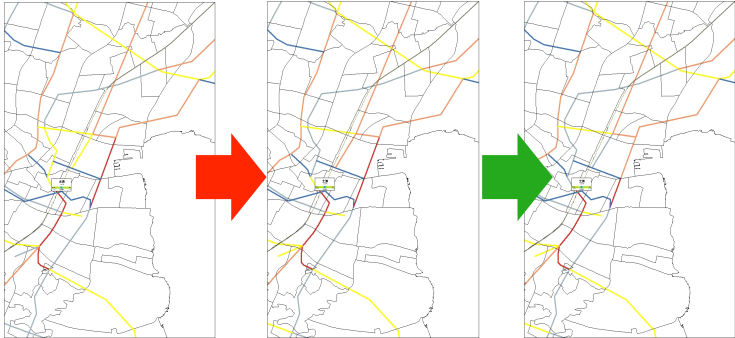


図 5-7.JICA STRADA による分析

また平成 27 年には市庁舎がウララに移転することが決定しており、中心市街地の大型店舗の一つが失われ、さらに中心市街地の商業の衰退が加速することが考えられる。

5-2-5-2. にぎわい特区計画

・市役所役員の自転車公共交通機関利用の促進

市役所の駅前移転に伴い引き起こされる渋滞の緩和策として市役所の役員の自転車・公共交通機関の利用を促すことを提案する。この施策を行ったときの交通量を JICA STRADA を使用して分析したところ図 5-7 からわかるように施策後に渋滞の緩和が見られた。

・駅とモール 505 接続提案

土浦駅西口は北地区開発によって新図書館が建設され、土浦駅と新図書館がベデストリアンデッキでつながれる計画となっている。このベデストリアンデッキをモール 505 までさらに延長し 3 階のレベルでつなぐことを提案する。これによって市役所の移転先となるウララ、土浦駅、新図書館、モール 505 がつながり駅周辺の回遊性の向上とともにモール 505 へ人々を誘導するみちとなる。また現在モール 505 の東側に立地している駐車場の上部にモール 505 の入口として空中広場を新設する。モール 505 の改修工事を行い、リノベーションという形で商業施設として活用する。具体的には現行の黒いガラスを透明なガラスに変更し施設内部の活動が外部から見えるように可視化。片側道路を両側道路に変更し両サイドに対して開いたデザインとする。またヴォイド空間を入れ込み、より多くの採光を取り入れることで全体的に明るく開放的な施設に作りかえる。図 5-8 に駅前計画の概要を示す。

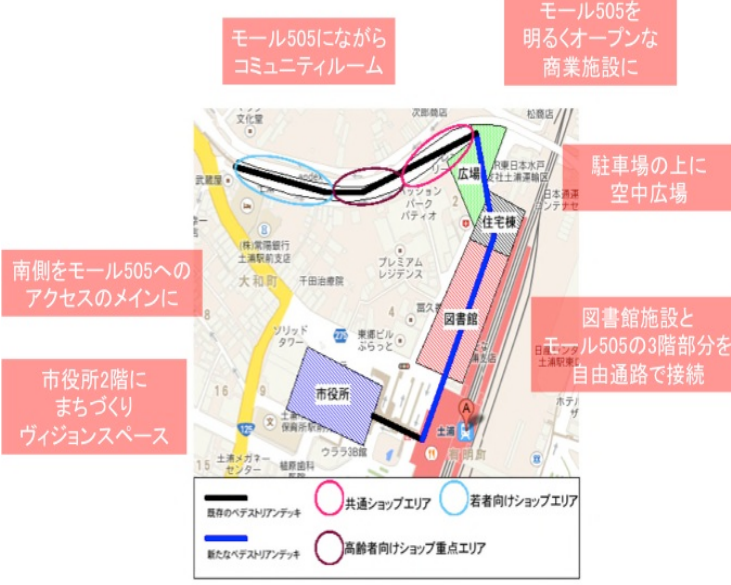


図 5-8.土浦駅前計画

・ながら交流拠点

市役所に、まちづくりヴィジョンスペースと題した「ながら交流拠点」をつくる。駅側のデッキに面して配置し、市役所の人間が交代で常駐することで市のまちづくりのヴィジョンを知ってもらう情報発信の場とする。カフェを併設して市民が気軽に入ることのできる雰囲気とし、市民の持つまちに対する要望などを意見できる場とする。定期的にまちづくりワークショップを行い、土浦の中心、まちづくりの拠点とする。

【5-3. ターゲット別 PR 大作戦】

5-3-1. 現状

現在、市は情報発信に広報誌、ホームページ、Twitter などの手段を使っている。その利用者について、若年層においては Twitter の普及率が比較的高いが、高齢になるに従いインターネットを介した情報取得には抵抗を感じるようになると一般に考えられている。また統計つちうらによると広報つちうらの購読率は 75 歳以上で 84.5%を誇るのに対し、20－24 歳では 20.5%と非常に低い現状が図 5-9 より分かる。

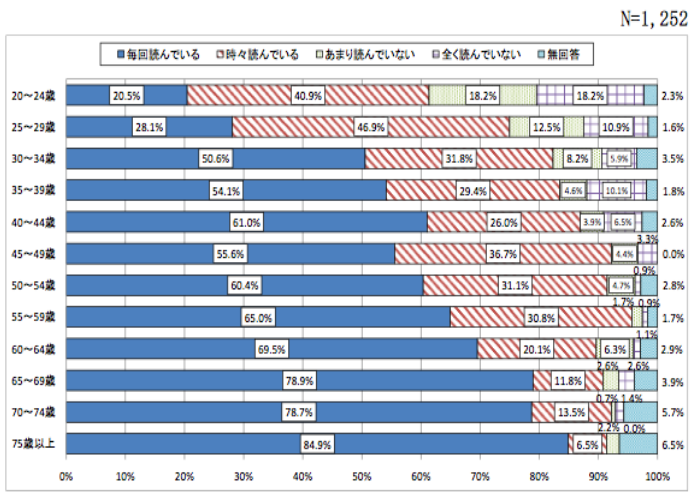


図 5-9.年代別広報つちうら購読率（土浦市満足度調査）

5-3-2. 提案

市の情報発信に「広報つちうら」と「Twitter」を活用する。若年層を中心とした Twitter を利用する人々は Twitter と広報つちうら両方から情報を得ることができ、Twitter を利用していない人も広報つちうらで情報を得ることができる。

広報つちうらは前述したように中学生が関わることで内容のリフレッシュが図られ、また同時に若年層の購読率増加が見込まれる。Twitter については土浦市アカウントのフォロー画面を店頭で見せると割引を行うという市との連携店舗を作ることによってフォロワーする人の増加が見込まれる。これにより Twitter による情報発信の有効性向上が図られる。なお、広報つちうらの購読者にも同等の割引サービスを行うことで Twitter を使わない世代へも配慮することとする。

6.今後の予定

今回の提案では前回の発表から現状の把握と提案の内容について深めるためにヒアリング調査を重ねた。今後はこうしたヒアリング調査の継続とともに、各事業についての費用対効果の検証や運営体制の更なる検討を進めてゆきたい。

7.参考資料・文献

- 土浦市耕作放棄地対策協議会. “土浦市耕作放棄地解消計画”
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1269591701_doc_27.pdf.
- Cyclist_sunspo. “2016 年度総距離 216km 日本一のサイクリングロード整備へ:茨城”.
http://cyclist.sanspo.com/79576. 2013/06/27.
- 国土地理院. “2.5 万分の 1 地形図” (筑波、上郷、柿岡、常陸藤沢、土浦、常陸高浜、木原).
- マルヤガーデンズ.”公式 HP”.
https://www.maruya-gardens.com/.
- 宮川央輝.“マルヤガーデンズとランドスケープマネジメント”.
http://blog.livedoor.jp/landscapemediamix/archives/51651794.html.
- 土浦市.”土浦駅前北地区第一種市街地再開発事業基本設計概要”.
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1219363509_doc_37.pdf
- 土浦協同病院. “新病院について”.
http://www.tkgh.jp/website/introduction/04sinbyouin/01.html.
- 土浦協同病院付属看護専門学校. “公式ホームページ”.
http://www.tkkangaku.net/.
- NPO 法人いろは. “公式ホームページ”.
http://d.hatena.ne.jp/iroha8258168/.
- 神立手帖. “神立手帖ウェブ版”.
http://kandatsu.org/post/1246.

[1],[2],[3]-[10]:2013 年 12 月 5 日最終アクセス